

## 調査研究彙報

### ◆名勝旧大乘院庭園の整備

(財)日本ナショナルトラストが国庫補助を受けて実施する名勝旧大乘院庭園の整備は七ヶ年計画の五年目になる。今年度の整備に関係する重要な発掘調査の成果としては、庭園東北部の地形が近代の造成によって大きく改変され、池の汀線が大きく北方へ後退することが判明したこと、北中島にかかる中世の橋脚・橋台部が確認できなかったことである。(年報1998-II p.参照)

先の調査成果を受けて、大量の近代盛上の範囲を推定するために次年度に発掘調査の負担を軽くするためにもボーリング調査を実施し、江戸時代末期の汀線の推定を行うこととした。整備事業は、仮設搬入路部分を除いて東岸の洲浜を20m分程整備した。整備手法は、池南岸と同様である。

(加藤允彦)

### ◆鳥取県の近代化遺産調査

2ヶ年計画の第2年次。本年度は、鳥取市および倉吉市を中心とする2度の詳細調査と補足調査を実施した。このうち、倉吉市郊外にある小川酒造は、外壁にコリント式オーダーの柱を配した応接間をもつ主屋と、数棟の酒蔵を広大な敷地に建てならべたうえ、背面を流れる鉢屋川の清流を引き入れた別邸「環翠園」をつくる。鉢屋川は数百m下流にある旧倉吉町水源ポンプ室(左図)まで続き、昭和初期に帰国家族が住みついて「倉吉のアメリカ村」と呼ばれた余戸谷町の町並みともあいまって、この付近は倉吉の近代を重層的に映し出している。これらの調査結果は、報告書として刊行した。

(箱崎和久)